

あべのハルカス美術館 2026年3月～2027年5月 展覧会ラインアップ

会期	2026年3月20日(金・祝) ～ 2026年6月14日(日)	2026年7月4日(土) ～ 2026年9月9日(水)	2026年10月3日(土) ～ 2026年12月6日(日)	2026年12月26日(土) ～ 2027年3月7日(日)	2027年3月20日(土) ～ 2027年5月9日(日)
展覧会名	ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト	ゴッホの跳ね橋と印象派の画家たち ヴァルラフ＝リヒャルト美術館所蔵	アンドリュー・ワイエス展	ルーシー・リー展 －東西をつなぐ優美のうつわ－	エリック・カール展 はじまりは、はらべこあおむし

【詳細】

ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト

会期：2026年3月20日(金・祝)～2026年6月14日(日)
 共催：ブルックリン博物館、朝日新聞社、東映、読売テレビ
 協賛：DNP大日本印刷
 協力：名古屋大学、日本航空、一般社団法人Platoo、ヤマト運輸、World Scan Project
 企画協力：日本テレビ放送網
 開催趣旨：彫刻、棺、宝飾品、陶器、土器、パピルス、そして人間やネコのミイラなど約150点の遺物を通じて、私たちの想像を超える高度な文化を創出した人々の営みをひも解きます。「知っているようで知らない事実」から最新技術を使ったピラミッド研究まで、映像や音声も交えて紹介します。



《神官ホル(ホルス)のカルトナーージュとミイラ》(部分) 前760～前558年頃



《カバの像》前1938～前1539年頃

いずれもブルックリン博物館蔵 Photo : Brooklyn Museum

ゴッホの跳ね橋と印象派の画家たち ヴァルラフ＝リヒャルトツ美術館所蔵

会 期：2026年7月4日（土）～2026年9月9日（水）

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

後 援：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館

企画協力：クオラス

開催趣旨：ドイツ、ケルン市のヴァルラフ＝リヒャルトツ美術館・コルプー財団が所蔵する豊かなコレクションから、モネ、ルノワール、ピサロほか印象派をめぐる42名の巨匠たちの作品70点を紹介します。とりわけ、印象派以降の流れのなかでも際立つ存在であるゴッホの《跳ね橋》が本展の見どころの一つです。



フィンセント・ファン・ゴッホ《跳ね橋》1888年 油彩、カンヴァス
Vincent van Gogh, The Drawbridge, 1888, Oil on canvas



エドゥアール・マネ《アスパラガスの束》1880年 油彩、カンヴァス
Édouard Manet, A Bunch of Asparagus, 1880, Oil on canvas

作品はすべてヴァルラフ＝リヒャルトツ美術館・コルプー財団蔵
Wallraf-Richartz-Museum & Fondation Corboud, Cologne
Photo: © RBA, Cologne

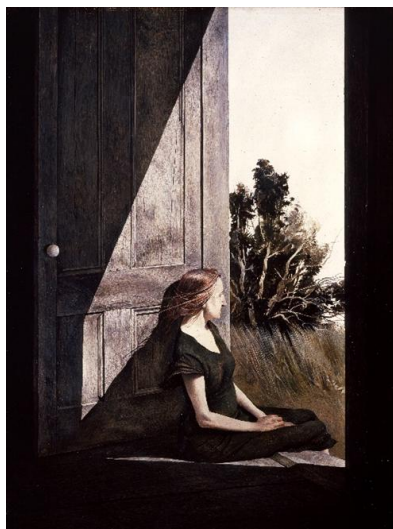
本展覧会は、ドイツ連邦共和国ケルン市のヴァルラフ＝リヒャルトツ美術館・コルプー財団の協力のもとで開催されています。

アンドリュー・ワイエス展

会 期：2026年10月3日（土）～2026年12月6日（日）

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：アメリカの風景や人々を、深い精神性を宿したリアリズムによって描いたアンドリュー・ワイエス（1917-2009）。日本では17年ぶりの大規模巡回展となる本展では、その作品に数多く登場する窓や扉といった「境界」を暗示する表現に光を当てます。内と外、自己と他者、生と死など、さまざまな「境界」をつなぐワイエスの絵画は、世界の分断が進むいまの時代に、静かな希望をもたらしてくれることでしょう。



《クリスティーナ・オルソン》1947年
テンペラ・パネル マイロン・クニン・コレクション、ミネアポリス
Myron Kunin Collection of American Art, Minneapolis, MN photo: Curtis Galleries, Inc.
© 2026 Wyeth Foundation for American Art / ARS, New York / JASPAR, Tokyo

ルーシー・リー展 - 東西をつなぐ優美のうつわ -

会 期：2026年12月26日（土）～2027年3月7日（日）
 共 催：朝日新聞社、朝日放送テレビ
 企画協力：国立工芸館
 特別協力：井内コレクション、京都国立近代美術館
 協 賛：DNP大日本印刷

開催趣旨：20世紀を代表する陶芸家ルーシー・リー（1902-1995）は、ウィーン工芸美術学校で轆轤と出会い陶芸の道へと進みます。それ以来、彼女の尽きない探究心から生まれた優美なかたちと豊かな色彩表現は、ウィーンからロンドンに渡り活動を続けるなかで洗練を極め、新しい造形世界を人々に提示しました。本展は、今もなお私たちを魅了してやまない彼女の作陶の軌跡を、それぞれの地で出会った人やもの、さらに東洋との関わりを交えながら紐解きます。

ろくろ



ルーシー・リー《ブロンズ釉花器》1980年頃
 井内コレクション(国立工芸館寄託)
 撮影：品野豊



ルーシー・リー《青釉鉢》1978年
 国立工芸館蔵
 撮影：アローアートワークス



ルーシー・リー《ピンク象嵌小鉢》1975-79年頃
 国立工芸館蔵
 撮影：エス・アンド・ティ フォト

あべのハルカス美術館

【開館時間】

火～金：10:00 - 20:00
 土日祝：10:00 - 18:00
 ＊入館は閉館30分前まで

【休館日】

一部の月曜日、年末年始
 展示替え期間(不定期)
 ＊展覧会により休館日は異なります。

【所在地】

大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43
 あべのハルカス16階

【最寄駅】

近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅
 JR各線「天王寺」駅
 Osaka Metro御堂筋線「天王寺」駅
 Osaka Metro谷町線「天王寺」駅
 阪堺上町線「天王寺駅前」駅

【アクセス】

